

ポム 学生団体 POMB

数学の魅力を共有。発信

「数学は受験でしか役に立たない」というネガティブイメージ。これを払拭するため、神戸大の数学マニアたちが立ち上げた学生団体がPOMBだ。「数学で広がる世界がある」という理念のもと、真の数学の面白さを探求し発信すべく日々活動している。対外向けのイベントを開催するなど、活動の幅も拡大中だ。

FOCUS

追いかける。大学生。

「受験数学は答えありきで堅苦しい。あれで数学を嫌いになってほしくない」と語るのは、代表の井崎友博さん(神戸大・2年)。高校時代から数学の専門書に親しみ、大学では学問として究めている。しかし周囲は受験時代に数学アレルギーを患った人ばかり。数学本来の面白さ、社会での実用性をより多くの人に伝えねばと思ひ立ち、昨年10月にPOMBを設立した。現在は神戸大生6人で活動



している。メンバーのほとんどは理学部数学科など専門課程の学生だが、中には経営学部で金融を学ぶ学生もおり、基礎研究から実用的な分野まで広くカバー。毎週学内の空き教室を使い、様々な数学の分野について発表や演習を行う「ゼミ方式」でメンバー間の知識共有を行っている。トピックは数学記号を用いる論理学や、二項係数の証明法、経営学の資産配分に応用される線

打倒！数学アレルギー

$${}^n C_r = \frac{n!}{(n-r)! r!}$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f(x)}{g(x)} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{f'(x)}{g'(x)}$$

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}, |A| = ad - bc$$



形計画法など多種多様だ。黒板には数式が所狭しと書き込まれ、メンバーたちはああでもないこうでもないという疑問点をつぶしあう。「大学数学は答えを求めるものでなく、証明を続けて突き詰めていくもの。1人で悩まず一緒に学ぶことが必要」と井崎さんは話す。インプットしたものはアウトプットにつなげる。メンバー内での探求に終わらせず、外部発信することはPOMBの理念の1つだ。学内では期末試験前にミクロ経済学講義の補足プリントを作成しSNSなどで拡散。学生たちの試験勉強の参考として活用されている。また学外で定期的に開いているのが、ヨーロッパ発祥のサイエンスカフェを参考にした数学カフェだ。学校や塾で受験数学と格闘する中高生を対象に、暗号



▲ 8月に開催された数学カフェの様子(写真提供=学生団体 POMB)

などを例にした素数の概念の紹介や、じゃんけんを使った確率論などをゲーム形式で学んでもらう。日常生活にあふれていることから数学にアプローチさせ、実生活に役立つ数学の面白さにはまるきっかけを作ることが狙いだ。今後は神戸大に留まらず、関西全域に活動の幅を広げていく予定。「POMBは数学の楽しさを共有し発信する数少ないツール。数学好きの人もそうでない人もどんどん参加してほしい」。紙とペンと好奇心があれば誰でも熱中できる世界へ、これからは独自のアプローチを続けていく。(聞き手=田中謙太郎)

UNN関西学生報道連盟